

想像／創造する力

現代企画室の海外文学とアートとの展開

南米アンデスの頂きから瀬戸内海の小島まで。
時代や国境を越えて広がる、本でつながる豊かな世界。

1977年に創業、世界の周縁から発せられる小さな声に耳をすまし、
同時代の表現者たちと併走することを旨として出版活動が続けてきた現代企画室のこれまでの仕事を、
本を媒介につながるさまざまな地域やアーティストとのネットワークとともにご紹介します。

会場 渋谷ヒカリエ 8F 8/CUBE 1・2・3 会期 2016年6月7日(火) - 6月12日(日) 時間 11:00 - 20:00 入場無料(イベントについては裏面をご参照ください)



[CUBE 1] 越後妻有アートトリエンナーレ／瀬戸内国際芸術祭

地域発の国際的芸術祭として世界的に注目を集める「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」。現代企画室は2000年のスタートから大地の芸術祭に協力し、記録集や参加アーティストの作品集、総合ディレクター北川フラムによるコンセプトブックの出版などを手がけてきました。今年からは越後妻有とならぶ国際展「瀬戸内国際芸術祭」の公式ガイドブックも発行しています。

『瀬戸内国際芸術祭2016公式ガイドブック アートめぐりの島旅ガイド』／『大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ2012』／北川フラム『美術は地域をひらく 大地の芸術祭10の思想』／マリーナ・アブラモヴィッチ『夢の本』／『越後妻有の林間学校2011-2012』ほか

topic 〈田島征三と「絵本と木の実の美術館」〉

越後妻有・鉢集落の廃校をまるごと「空間絵本」につくりかえた美術家・田島征三。現代企画室では「鉢&田島征三 絵本と木の実の美術館」に関連する作品集や絵本を4冊刊行しています。

『(空間絵本) 学校はカラッポにならない 絵本と木の実の美術館2009-2015』／田島征三＋おおか静流『トベラト』／田島征三『学校はカラッポにならない』『生命の記憶 田島征三作品集』

▶田島征三のトーク&サイン会を開催!

6月11日(土) 16時より、8/ COURT で開催中のFC 越後妻有関連企画において、モグラTVを展開する美術家・開発好明さんと田島征三さんのトークイベントを行います。トークの後には田島さんのサイン会も実施。ふるってご参加ください。

日時: 6月11日(土) 16:00-17:00 会場: 渋谷ヒカリエ 8階 8/ COURT
入場無料・予約不要

[CUBE 2] 世界を読む

1980年代から刊行を続ける「インディアス群書」(全20巻、現在14冊刊行)や「ラテンアメリカ文学選集」(全15巻)をはじめ「セルバンテス賞コレクション」「ロス・クラシコス」など定評あるシリーズを中心に、出版を通じて中南米やスペイン語圏の文学・歴史・文化を日本に紹介してきた現代企画室。他にもアジア、アフリカの諸地域や中東、東欧、ロシアなどの文学やルポルタージュ、近年では「オーストラリア現代文学傑作選」の刊行など、本を介して遠くの他者をつなぐことを願って出版活動に取り組んできました。CUBE 2では近年の刊行物を中心に、現代企画室のさまざまな本を手にとってご覧いただけます。

topic 〈末盛千枝子ブックス〉

すえもりブックスを主宰した名編集者・末盛千枝子さん。「末盛千枝子ブックス」では、末盛さんが新しく企画・編集する世界の絵本や著作を刊行するほか、末盛さんがかつて手がけた名作の復刊にも取り組んでいます。

【最新刊】クニー『小さな曲芸師 パーナビー』／テューダー『すばらしい季節』／ゴフスタイン『ゴールディーのお人形』『ピアノ調律師』『あなたのひとり旅』／末盛千枝子『人生に大切なことはすべて絵本から教わった』1・2

[CUBE 3] 表現者との協働

現代企画室が創業より力を入れているもうひとつの分野が、同時代のアーティストたちの作品集の出版です。CUBE 3では、今年出版した『叢 小田康平の多肉植物』を、広島植物屋「叢」店主・小田康平さんが見立てたサポテン約50鉢とともに展示します。さらにシネマテーク・インディアスが日本で配給したポリビア・ウカマウ集団の映画作品、粟津潔、秩父前衛派などのアーティストをラインナップするKEN BOOKSの映像・音楽作品、電子映像の新たな表現を模索するREF lab. がリリースするビデオアートなど、現代企画室が企画から流通・発売にかかわった映像作品も紹介します。

topic 〈展覧会図録など〉

美術館などから依頼を受けて制作する展覧会図録や協力団体と共同でつくった芸術関連書など、現代企画室のネットワークから生まれた本の一端をご紹介します。

《現代企画室のタベ》ブックフェア開催記念トーク

笹久保伸(秩父前衛派) × 太田昌国(現代企画室編集長)「越境する表現のゆくえ」

世界の民族問題を研究し、中南米の芸術・社会運動と協働を続ける現代企画室編集長の太田昌国と、フォルクローレの本場アンデスで音楽家として活躍し、日本帰国後は映画監督として、あるいは美術家としてマルチな活動を展開する鬼才・笹久保伸(秩父前衛派)が、日本に位置しつつ世界の様々な場所と直接つながって表現することの意味や可能性をめぐって対談します。トーク後、笹久保伸によるギター演奏も披露。

日時: 2016年6月8日(水) 19時~20時30分(開場18時30分) 会場: 渋谷ヒカリエ8階 8/ COURT 会費: 1,000円(会場にて現代企画室の書籍を購入いただいた方は無料)
参加ご希望の方は、CUBE 会場の受付か下記問合せ先までお申し込みください。

[出演者プロフィール]

笹久保伸(ささくぼ しん): 現代音楽とアンデス音楽を演奏するギタリストとして世界各国でソロ公演をおこなう。2004年~2007年、ペルーに在住しアンデスの農村で音楽を採集調査しながら演奏活動をおこない、現在までにCD25枚をペルーと日本のレーベル各社からリリース。現代の作曲家とも交流を持ち、高橋悠治、Sylvano Bussotti、Carlo Domeniconi、杉山洋一らの新作を初演する。2008年頃より郷土をテーマとしたアート運動「秩父前衛派」を始め、音楽、映画、美術、演劇、写真、文筆、講演などさまざまな文脈で活動。秩父前衛派名義で8ミリフィルム映画を3作品発表し、2015年山形国際ドキュメンタリー映画祭にて映画「PYRAMID 破壊の記憶の走馬灯」が上映される。また「瀬戸内国際芸術祭2016」では小豆島で石のインスタレーション作品を発表している。

<http://shin-sasakubo.com>

太田昌国(おた まさくに): 民族問題研究、編集者。1943年、北海道釧路市に生まれる。1960年代に『世界革命運動情報』誌(レポート社)の編集などに携わり、1970年代半ばの数年间はラテンアメリカ諸国を放浪。帰国後、アンデスの先住民族を主体として描くポリビア・ウカマウ映画集団の作品の上映運動や共同制作に取り組む一方で、現代企画室に加わり多数の人文書を企画・出版。南北問題、民族問題を軸にして、世界一東アジアー日本の歴史過程と現状を分析することに関心をもつ。「死刑廃止のための大道寺幸子・赤堀政夫基金」運営委員。

http://www.jca.apc.org/gendai_blog/wordpress/

お問合せ・書籍購入のお申込は下記まで。



現代企画室

〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-8 高木ビル204 t. 03-3461-5082 / f. 03-3461-5083 / gendai@jca.apc.org
<http://www.jca.apc.org/gendai/> (WEB サイトからも書籍の検索・注文が可能です)